

# 廃棄物削減と再資源化

ニチレイグループは、循環型社会の実現に貢献するために、事業活動に伴って発生する廃棄物のうち、最終処分廃棄物の削減を目標に掲げ、廃棄物の発生抑制とリサイクルに取り組んでいます。

## 最終処分廃棄物の削減

ニチレイグループは、2010年度までに、事業所から排出されたごみ(事業所外排出量)のうち、直接処分場に埋め立てられたり、外部エネルギー利用などがされず単純焼却される廃棄物の量(最終処分廃棄物量)をゼロにすることを目標として、各事業所において取り組みを行っています。

廃棄物の発生抑制では、生産工程の改善による加工残さ(生ごみ)の削減や、食用油・調味料の購入形態を小型の使い捨て容器から大型の通い容器への変更するなど、さまざまな工夫をしています。

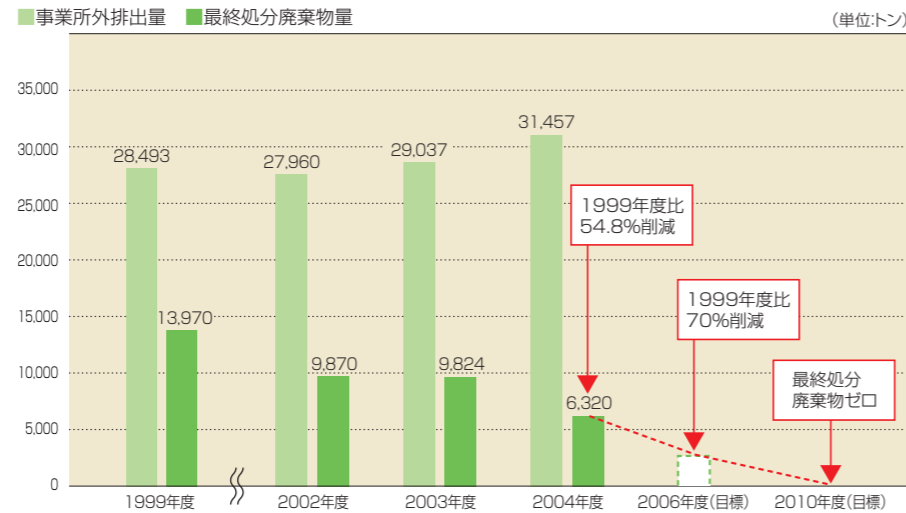
また、廃棄物のリサイクルにおいては、リサイクル方法の情報収集に努め、リサイクルルートを確立するとともに、リサイクル方法に対応した分別の徹底を図っています。

リサイクル業者を選定する場合は、担当者が処理施設へ行き、処理の適切性の確認を行っています。

こうした取り組みの結果、2004年度の最終処分廃棄物量は6,320トン(1999年度比54.8%削減)となり、2006年度末目標(1999年度比70%削減)に向けて前進することができました。

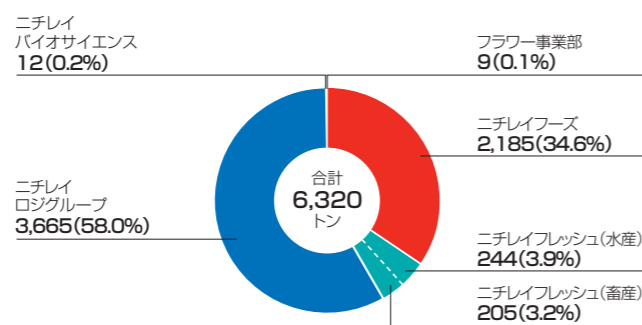
また、3食品工場、6物流センターにおいて、新たに最終処分廃棄物量ゼロを達成し、ごみゼロ事業所は全部で10事業所となりました。

事業所外排出量と最終処分廃棄物量(ニチレイグループ)



※2004年度よりニチレイバイオサイエンス、フラワー事業部の実績を加算しています。

各事業会社の最終処分廃棄物量 (単位:トン)



## 最終処分廃棄物の内訳

	ニチレイフーズ	ニチレイフレッシュ(水産)	ニチレイフレッシュ(畜産)	ニチレイロジグループ	ニチレイバイオサイエンス	フラワー事業部	合計
事業所外排出量	18,139	2,210	841	10,221	33	13	31,457
最終処分廃棄物量							
食用油	0	0	0	0	0	0	0
動植物性残さ	1,071	2	29	1,377	4	6	2,489
フロス・余剰汚泥	195	5	0	40	0	0	240
プラスチック類	145	1	0	290	3	1	440
空缶	2	17	0	10	0	0	29
紙段ボール類	13	1	0	891	2	1	908
木屑	1	1	0	125	0	0	127
その他	758	217	176	932	3	1	2,087
合計	2,185	244	205	3,665	12	9	6,320
リサイクル率 (%)	88.0	89.0	75.6	64.1	63.5	30.8	80.0

# 地球温暖化防止

ニチレイグループは、電力や燃料などのエネルギーの効率的な利用に努め、地球温暖化防止の主な原因であるCO<sub>2</sub>の排出量削減に取り組んでいます。

## CO<sub>2</sub>排出量削減

食品工場では、1999年を基準として、生産トン当たりのCO<sub>2</sub>排出量(以下原単位)の削減を進めています。

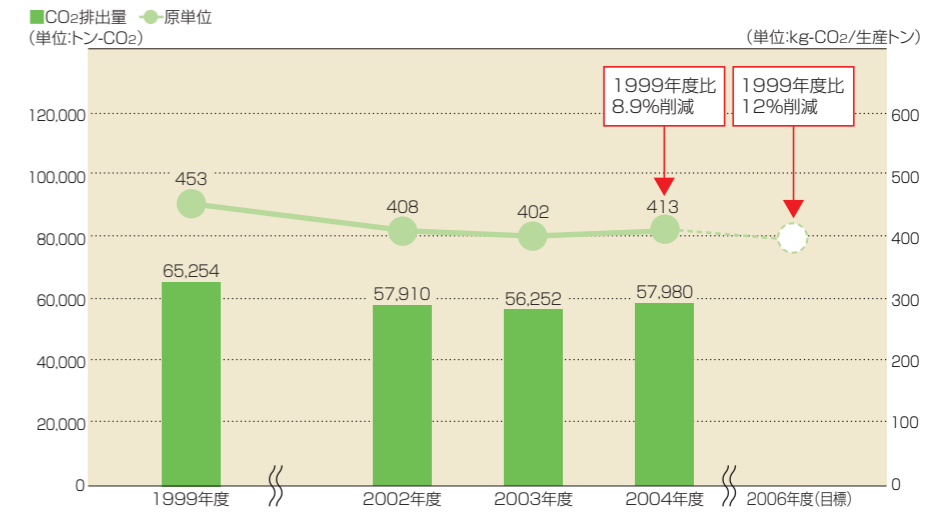
2004年度は、生産設備の省エネ運転や生産工程の改善など、継続した改善活動を進めましたが、原単位の比較的小さい製品を生産していた工場が集計対象から外れたことなどから、原単位が対2003年度比で増加しました。

物流センターでは、保管商品の品質確保のため、作業場の低温化を進めていることや新規物流センターの稼働により、CO<sub>2</sub>排出量が増加しました。

今後さらに、CO<sub>2</sub>排出量の削減を進めるため、ニチレイフーズとニチレイロジグループの本社技術部門が、最新の省エネ技術や省エネ活動の情報を共有、検討するための会議体を発足し、より効果的な対策の検討を開始しました。

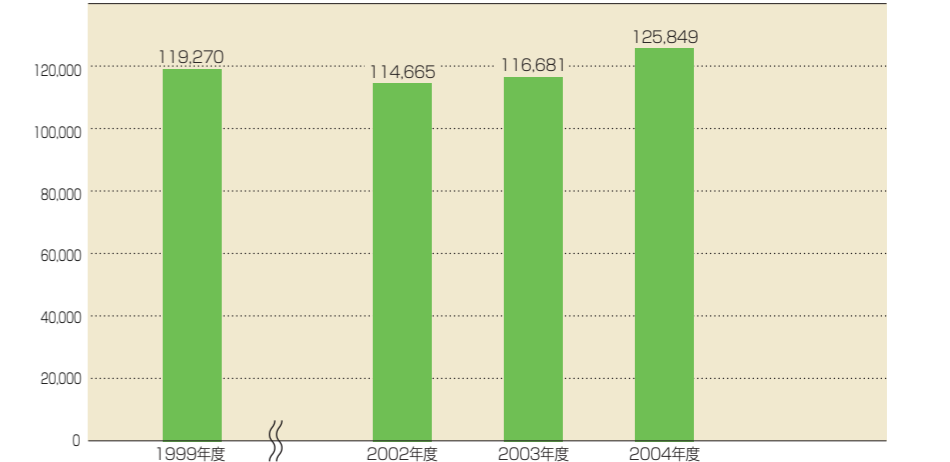
また、物流におけるCO<sub>2</sub>排出量削減においても、ニチレイフーズのモーダルシフトの推進(⇒P41)、ニチレイロジグループにおける協力運送会社と連携した燃料使用量削減(⇒P44)や、共同配送などの効率的な物流提案などに取り組んでいます。

食品工場のCO<sub>2</sub>排出量

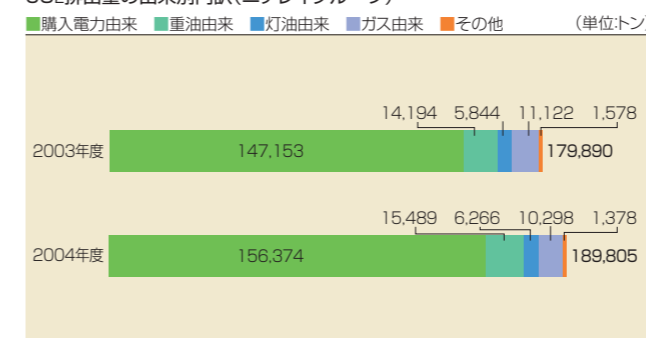


※社有車燃料由来分を除く。

物流センターのCO<sub>2</sub>排出量(購入電力由来分のみ)



## CO<sub>2</sub>排出量の由来別内訳(ニチレイグループ)



各事業会社のCO<sub>2</sub>排出量 (単位:トン)

